

シュンギク (野菜類の登録農薬も使用できる)

薬剤名	作用 機構 分類 コード	人 畜 毒 性	使 用 時 期 (日 数)	使 用 回 数	う ど ん こ 病	炭 疽 病	ア ブ ラ ム シ 類	コ ナ ジ ラ ミ 類	ア ザ ミ ウ マ 類	ハ モ グ リ バ エ 類	マ メ ハ モ グ リ バ エ	オ オ タ バ コ ガ	ヨ ト ウ ム シ	ハ ス モ ン ヨ ト ウ	シ ロ イ チ モ ジ ヨ ト ウ	ネ キ リ ム シ 類	ハ ク サ イ ダ ニ
アミスター20FL	11		1	2		◎											
スクレアFL	11		1	3		◎											
ストロビーFL	11		14	3		◎											
サンクリスタル乳	-		1	-	◎		◎	◎									◎
アディオン乳	3A		21	2			◎										◎
ガードベイトA粒	3A		*c	2													◎
アルバリン顆溶 スタークル顆溶	4A		1	2			◎										
アルバリン粒 スタークル粒	4A	*a	1						◎	○							
		*b							◎	○							
ダントツ溶	4A		3	3			◎		◎	○							
ダントツ粒	4A		*b	1			◎		◎	○							
ベストガード粒	4A	*a	1				◎	◎		◎							
		3															
モスピラン顆溶	4A	劇	3	2			◎										
ディアナSC	5		1	2					◎		◎		◎				◎
アフーム乳	6		7	2				◎	◎	○					◎		
コテツFL	13	劇	14	2										◎			
カスケード乳	15		7	2				◎		◎		◎	◎				
トリガード液	17		7	2					◎	○							
ウララDF	29		1	2			◎										
プレオFL	UN		1	2										◎			

*a:定植時 *b:播種時 *c:生育初期

シュンギク (野菜類の登録農薬も使用できる)

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
べと病	播種前 生育初期～ 生育期	1. 排水をよくする。また過度の灌水は控える。 2. 密植、肥切れをさける。 3. 被害株は抜きとり処分する。 4. 発病株での採種、播種をさける。	春と秋に発生し、特に9～11月に多湿状態が続くと多発する。 分生胞子の発芽適温は15～20℃、多湿条件で発生しやすい。
炭疽病	生育期	・発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。 アミスター20フロアブル 2000倍 ストロビーフロアブル 3000倍	
てんぐ巣病	生育期	1. 発病株は早期に抜きとる。 2. 周囲の雑草を除去する。	ファイトプラズマによる。ヨコバイ類が伝搬する。
モザイク病		1. 発病株は早期に抜きとり土中深く埋める。 2. アブラムシを防除する。	
アブラムシ類	生育期	・次の薬剤のいずれかを散布する。 オレート液剤* 100倍 モスピラン顆粒水溶剤 8000倍	*野菜類での登録
コナジラミ類	定植時および生育期	・次の薬剤を散布する。 ベストガード粒剤 9kg/10a	定植時は植溝処理土壌混和、生育期は株元処理。
アザミウマ類	生育期	・次の薬剤のいずれかを散布する。 アフーム乳剤 2000倍 カスケード乳剤 2000～4000倍	
ハモグリバエ類	生育期	・次の薬剤を散布する。 トリガード液剤 1000倍	
ハスモンヨトウ	生育期	・次の薬剤のいずれかを散布する。 エコマスターBT* 1000倍 カスケード乳剤 2000～4000倍	*野菜類での登録
その他の病害虫		菌核病	